

## 福音派とカトリックの間に一致はあるのでしょうか？

モリエルミニストリーズ・ジャパンは、『プロテスタントとカトリックの団結ですか？』（ICM 出版）という本を大いにお勧めします。その本からカトリックの文書の翻訳を多く引用しています。

カトリック教会内にはその伝統についての様々な違いが多くありますが、教義に関して一致が要求されている事柄があります。これから見ていくように、その教義は福音派すべてが地獄へ行くと宣告しています。私たちがこれを書くのは、すべてのカトリック信者が救われていないと言いたいからではありません。もちろん神の恵みにより、歴史を通してなされてきたようにローマ・カトリック教会の中でも間違いに気づき、カトリック教会から出るように導かれた人が多くいます。しかしながら、組織としてのローマ・カトリック教会は、使徒たちが宣べ伝えたものと反する別の福音を伝える偽りの宗教制度です。聖書の中で与えられ救いをもたらすことのできる真実の福音の他に福音は無いことを、聖書ははっきりと記しています。

『しかし、私たちであろうと、天の御使いであろうと、もし私たちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その者はのろわれるべきです。』  
ガラテヤ 1：8

## 福音派とカトリックの協調？

プロテスタント、福音派、ペンテコステ派はかつてローマ・カトリック教会の偽りの教理に対してはっきりと声を上げていたのですが、現在では真実の教会の中で、多くの人がローマとのエキュメニカル（世界教会主義）的一致や協調に、福音派を引き込もうとしています。1997年、福音派とカトリック指導者 20 名が「福音派プロテスタントとカトリック信者の団結：第 3 千年期に向けたキリスト教ミッション」という共同声明に署名しました。その署名者はビル・ブライト（キャンパス・クルセード・フォー・クライスト）や J・I・パッカー、パット・ロバートソン、チャールズ・コルソン（刑務所伝道団体）などの著名な福音派指導者たちでした。その声明文は「福音派プロテスタントとカトリック信者はキリストにある兄弟姉妹である」とうたっており、プロテスタントからのカトリック信者の伝道、またその逆も禁じようとしています。そのような声明文によって、大半のカトリック信者は新生した信者であり、福音を聞く必要がないことをほのめかしています。（\*1）

また 1997 年には同じような文書「福音派プロテスタントとカトリック信者の団結：救いの賜物」というものが発行され、有名な福音派指導者とカトリック指導者たち 40 名が署名しました。それは上記の顔ぶれと、マックス・ルケードらです。この文書はプロテスタントとローマ・カトリックは救いの教理において一致していると主張しました。チャールズ・コルソンは「(マルティン・) ルターでさえ (この宣言になら) 署名し、それを誇りに思うことだろう」とまで語っています。

## 宗教改革の理由

プロテスタントの宗教改革は決して歴史上の単純な出来事ではありませんでした。当時さまざまな団体が違った方向を目指していました。しかし基本的には、ほとんどの改革者たちが次の 3 つの教理について一致をみていました。

1. 唯一聖書が私たちの真理への導き手であること。伝統、教会会議、教皇の宣言にはよらないこと
2. 救いはキリストの十字架上での贖いのわざ、一度きりのものにより完成されている。私たちは十字架刑を再現したり、キリストのわざに付け加えることができない
3. 私たちは信仰を通して、神の恵みによって救われるのであって、何かの働きや儀式などにはよらない

これらの点において、ローマ・カトリック教会は聖書から逸脱しています

ローマ・カトリックの教え：

1. 聖伝と聖書とは、教会に託された神のことばの一つの聖なる委託物を形造っている。  
(第 2 バチカン公会議,1965,1996) (\*2)  
聖書は実質上 (つまり内容的に) 十分とは言えず、神の啓示の全体像を正確に捉えるためには、補足としての口頭伝承を必要とする。(\*3)
2. 司祭が奉獻の驚くべき言葉を発するとき、彼は天に昇ってキリストをその王位から連れ降ってわれわれの祭壇の上に再び人間の罪の犠牲としてささげるのである。  
(1950,1959) (\*4)
3. 神から受けた義を善業によって保ち、それを増すことはできず、善業はそれを増す原因ではなく、受けた義化の結果・しるしにすぎないと言う者は排斥される (トレント公会議,1547,1992) (\*5)

最も有名な改革者たち、ルター、ツヴィングリ、カルヴァン、克蘭マーなどはただのローマ・カトリック司祭ではなく、聖職者の中の知識人階層でした。彼らは聖書を原語で読み、ローマ・カトリックは間違っていると気付いたのです。実際、ローマ・カトリックの制度に留まることができない程それは間違っており、多くの場合、命の危険を冒してまで彼らはカトリックを離れました。しかし、彼らは聖書からローマ・カトリックの神学と異なるどのような教えを見つけたのでしょうか？

例えばルターはフランスの人間主義学者ルフェーブルから、ギリシア語の「メタノイア」は「悔い改め」を意味するのであって、「ゆるしの秘蹟を行う」ことではないと学びました。それまでルターは義を得ることを望んで自身の体を苦しめていましたが、後に義は信仰によって与えられるものであって、単に神に「立ち返る」ことだと気付いたのです。現代、非常に多くのカトリック教徒たちがこの世での自分の苦しみと、後の煉獄での苦しみが自分の罪を償うと信じていますが、それは根拠の無い希望です。カトリックの神学はこの世での完全な赦しを提供できないばかりか、やがて来る世での赦しも与えることができません。

『恩恵の状態に確信を持つことができない理由は、次のとおりである。すなわち、特別な啓示がなければ、誰一人として確実な信仰をもって、自分は果して義化を達成するのに必要とされているすべての条件を満たしたか否かを、知ることができないからである。 (1955,1974)』(\*6)

当然ながらカトリックには多くの論争される点がありました。これらのことを説明する論文や説教が数え切れないほどありましたが、それらは今日ほとんどないがしろにされています。それらのいくつかを吟味してみましょう。

## 唯一の正しい教会？

ローマ・カトリック教会はペテロの上にキリストによって建てられた、唯一の正しい教会だと自身のことを主張しています。

『正統に神のみことばを解釈する役目は、教皇と、教皇に一致した司教団とに、単独で委ねられてきたものである。 (1994)』(\*7)

そのような役割がローマ・カトリック教会であるということは問題を抱えた教えです。なぜなら、東方正教会のほうがはるかに古いからです。最初の信者たちはアンテオケで集ま

り、福音はローマに届く前にギリシアを通過して、トルコに広がったと人々は主張します。アルメニアやアッシリア、エジプトの教会もみな、ローマ教会よりも古く、時代が早いという同じような主張をすることができます。突き詰めていくと、ユダヤ人のメシアニック系教会が最も初期の教会といえるでしょう。教会史の最初期におけるクリスチャンはもっぱら、ユダヤ人かユダヤ教への改宗者たちでした。キリストの唯一なるまことのからだは、ユダヤ人であれ、異邦人であれ、ローマ人や何人であっても、使徒たちの教えに固くつく信者たちの集まりです。これは大したことの無い問題と受け止められがちです。しかしこの間違った考えに基づいて、ローマ・カトリック教会はみことばの意味を解釈する唯一の権利を持っていると主張します。

『あらゆる国の人たちを教え、キリストの約束通り聖霊により導かれつつ絶対誤りなき教えを与えるようキリストによって任命を受けたのは、カトリック教会であった（ヨハネ 14：25、16：13）。カトリック教会が、ある教理を確かに真理だと教えているという事実だけで、その教理が真実であるという保証となる（ルカ 10：16 参照）。（1996,1999）』（\*8)

公式なもので、非常に最近に出されたこのローマ・カトリック教会の教えは、真理を重んじる人すべてにとって恐るべきものです。私たちがそう言うから真理なんだ！と、これはあらゆる点で洗脳を行っているしるしです。

## 救いの教義

（カトリックの教えのもっと完全な分析は『プロテスタントとカトリックの団結ですか？』をご覧ください）

## 聖書の教え：

『あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。』エペソ 2：8

『ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。またキリストによって、いま私たちの立っているこの恵みに信仰によって導き入れられた私たちは、神の栄光を望んで大いに喜んでいます。』ローマ 5：1-2

パウロは、私たちが信仰により義と認められ、またこの恵みに信仰によって導き入れられたと語っています

## カトリックの教え：

『信仰だけで罪人が義化される、すなわち、罪人が義化の恩恵を得るためには信仰以外の何ものも必要でない...と言う者は排斥される。（トレント公会議,1547,1992）』（\*9）

この教えは、信仰による義化の福音を宣べ伝えるすべての福音派を地獄に行くことと定めます。覚えていてほしいのが、カトリックはこれらの宣言を取り消さず、そのまま採用し続けているということです。

ヘブライ的な恵みの考え方はケセッド (*Chesed*) といいます。契約の中にある神の慈しみです。ギリシア的な恵みの考え方はカリスマ (*Charisma*) であり、受けるに値しない賜物です。しかしカトリックにとって、恵みとは善い行いや秘蹟によって得られるものなのです。

『「終わりまで」善業を行い...神に希望をかける人々には永遠の生命が慈悲深いキリスト・イエズスによって神の子たちに約束された恩恵として、また、神自身の約束によって、善業と功績に対して確実に与えられる「報酬として」期待できるのである。【かぎ括弧による強調は原文より】（トレント公会議,1547,1992）』（\*10）

『人は聖霊の恵みと結び合わされ、自らの良い行いによって天国を得なければならないということは、カトリック教会の普遍的に受け入れられている教義である。...クリスチャンは良い行いにより自分自身のために天国を獲得することが実際にできる。（1977）』（\*11）

**『律法の行ないによって義と認められる者は、ひとりもないからです。』ガラテヤ 2：16**

**『私は、彼らが神に対して熱心であることをあかしします。しかし、その熱心は知識に基づくものではありません。というのは、彼らは神の義を知らず、自分自身の義を立てようとして、神の義に従わなかったからです。』ローマ 10：2-3**

カトリックの福音は間違った福音です。これを信じる人は誰でも、誤って自分の努力により永遠の命にふさわしくなれると信じさせられているか、より正直な人は永遠の命を受けることをもう諦めてしまうかどうかです。どちらであったとしても、救いの確信は本当

には無く、救いに至る信仰も全く出てきません。

福音派たちがこのような声明に調印して、カトリック教徒はもはや真実の福音を聞く必要が無いとし、行いを基礎とし、地獄へ至る宗教に陥ったままにすることは何と悲しいことでしょうか。

『誰一人として...確実な信仰をもって、自分が恩恵の状態にある【すなわち、罪が赦され、義と認められている】と知ることができないからである。(トレント公会議,1547,1992)』(\*12)

『ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。またキリストによって、いま私たちの立っているこの恵みに信仰によって導き入れられた私たちは、神の栄光を望んで大いに喜んでいます。』ローマ5:1-2

## カトリック教会の外には救いは無いのでしょうか？

『すべての人は救いのために教皇に対する服従が絶対必要であると宣言し、明記し、定義する。(教皇ボニファチウス8世,1302,1992)』(\*13)

『カトリック教会の外において誰一人として救われないというカトリックの教理は明らかである。そのため、この教会の権威に反対し...教皇の権威と決定に頑固に反対する者は、永遠の救いを得ることはできない。(教皇ピウス9世,1863,1992)』(\*14)

もし誰もローマ・カトリック教会の外では救われないのなら、伝道者のピリポがエチオピア人の宦官にバプテスマを授けたとき、使徒たちと関係を持たせないまま彼をエチオピアに送り返したのでしょうか？(使徒8:39)

## カトリックの教義は決して変更されない

ここでカトリックの教義は変更されることがないという事実を指摘する必要があります。第2バチカン公会議では、トレント公会議を含むすべての声明が再び採用されました。従って、カトリックとプロテスタントと一緒に座り、一致について語る時、自身以外には救いはないと語るローマ・カトリック教会に(最終的に)再び入ること以外、どのような一致について話すことができるでしょうか。

「キリスト者一致へのバチカン事務局」の事務局長で、主要な福音派を熱烈に歓迎するオーガスティン・カーディナル・ベアはカトリックの意図を明らかにしています。

『ローマ・カトリック教会の現代のエキュメニカルで冒険的な同調と、寛大さがその固定された教義的立場を見直そうとしていると思われるなら、それは大きな誤解だ。この教会がなそうとしていることは、その固定された立場のより創意工夫に富み、この時代に合う提示の方法なのである』(\*15)

デーブ・ハント (*Dave Hunt* キリスト教弁論家) はこう説明しています。

「事実を考えてもらいたい。宗教改革に反対するため、ローマの主要な神学者たちはトレント公会議 (1545-63) で会合したのである。ローマ・カトリックの公式な教義を定義しているその教会法と布告は、改革者たちが支持していた恵みの福音を非難する 100 以上の破門 (アナテマ) を含んでいた。すべての福音的な教理に呪いをかけられているのだ！では、第 2 バチカン公会議はどうなのだろうか？

『この聖なる評議会はもう一度トレント公会議の布告を提案する』(これは 100 以上の破門を含んでいます！)

カトリック・アンサーズ (*Catholic Answers*) (1993 年 3、4 月) ではこう主張されている。

『何であれ、ある時代にこの教会が「公式に」教えたことは、すべての時代にこの教会が「公式に」教えたことである。トレント公会議 (の教理) は今日のこの教会の聖体を中心とする信仰に完全に一致している。』(\*16)

## パーパス・ドリブン (目的主導) エキュメニズム？

最近、『人生を導く 5 つの目的 (*The Purpose Driven Life*)』の著者であるリック・ウォレンは、カトリック教徒を救われたクリスチャンとして受け入れる者たちのひとりです。彼は長い間、ブラザー・ローレンス (*Brother Lawrence*) やヘンリー・ノウアン (*Henry Nouwen*) などの神秘主義カトリック教徒や、ピート・スカッゼロ (*Pete Scazzero*) などの神秘主義者の著書を推薦し、プロテスタントとカトリックの一致を勧めています。ローマ・カトリックの公式教義が彼を地獄に定め、すべての福音派を地獄に定めているにも関わらず、リック・ウォレンは神学に関して何の違いも見出さず、それらを「本質的でないもの」として見ているのです。

『私がお勧めするもうひとつの話題は、福音派プロテスタントとカトリックの間で展開する強調、特にカトリックの中の福音派の中のものだ』(\*17)

『いいえ、違うんだ。それはアウグスティヌスが言ったことだと思う。「本質的なものには一致を。本質的でないものには自由を。そしてすべてのものに慈善を」そして、こうすれば福音派とカトリックが一致できると思うんだ』(\*18)

USAトゥデイから

『ウォレンの牧師養成プログラムは、カトリック教徒、メソジスト、モルモン教徒、ユダヤ教徒、叙任された女性を歓迎している。「私は本質的でないことについて議論したくはない。他の教派を変えるようなことはしたくない。どうして分裂を引き起こすんだい?』」(\*19)

## ヒルソングとカトリック

世界中でそのワーシップが有名なオーストラリアのヒルソング (アッセンブリーズ・オブ・ゴッド・オーストラリア) は、2008年の世界カトリック青年の日に参加し、教皇ベネディクトの前で演奏しました。

ヒルソングは公に発表しています

『2008年世界カトリック青年の日は、一致をもって、福音を私たちの町、私たちの国、私たちの世界に伝えるというカトリック教会のヴィジョンを果たす素晴らしい機会だ』(\*20)

A 2005 Hillsong press release...

*21 April 2005 FOR IMMEDIATE RELEASE*

## 新しく選ばれた教皇のために祈る

『オーストラリアのアッセンブリーズ・オブ・ゴッド代表のブライアン・ヒューストンは、教皇ベネディクト 16世を世界のカトリック教徒の指導者として、その選任を祝った。

「以前の教皇権のように、今回の教皇権がその福音の力と真理によって、人々を変えるキリスト教のメッセージを広めることに心を砕くようになることを私たちも祈る』」

*AOG Australia pressRelease. 21 April 2005. (\*21)*

これらは、教会史を通して福音派とカトリックを区別してきた根本的な教理の問題が、「一致」の名のもとに脇に追いやられているというごくわずかの例です。日本のクリスチ

ヤンたちと話す中で、ローマ・カトリック教会が実際どのようなもので何を教えているかに関して、きちんと認識していない人が多いように思います。キリスト教書店ではマザー・テレサやフランシスコ・ザビエルなどの隣に改革者たちのビデオを置き、あたかも両方がきちんとしたキリスト教を代表しているように見せています。店のオーナーに抗議しようものなら、私が経験したように「別に」という典型的な答えが返ってくることでしょう。モリエルは『プロテスタントとカトリックの団結ですか？』（ICM 出版）という本を読み、できるならばお買い求めになることをお勧めします。この本はよく証拠が揃っており、ローマ・カトリックの教えと聖書の真理とを説得力をもって比較したものです。

聖霊は真理の御霊です。真理無しに御霊の一致は存在するはずがありません。エキュメニズムの動機はしばしば慈善活動や社会不正に反対することなどです。教会がこのような目的を追求するとしても、その過程で私たちは決して真理に妥協してはいけません。真理は単純なものです。ローマ・カトリックが教える福音は、決して使徒たちの教えと相容れることはありません。

**『私たちは神から出た者です。神を知っている者は、私たちの言うことに耳を傾け、神から出ていない者は、私たちの言うことに耳を貸しません。私たちはこれで真理の霊と偽りの霊とを見分けます。』 1ヨハネ 4：6**

改革者たちはローマの間違った教えを正しく指摘しました。そしてこの世的な宗教組織は聖書が預言的にバビロンと言及するものと全く同じです。私たちはカトリック教徒たちに福音を伝え、バビロンの欺きから信者を守ることに専念しましょう。

**『私たちは、バビロンをいやそうとしたのに、それはいやされなかった。私たちはこれを見捨てて、おのおの自分の国へ帰ろう。バビロンへの罰は、天に達し、大空まで上ったからだ。』 エレミヤ 51：9**

モリエル日本 ジェフ・トゥール（2010年4月2日）

- (1) プロテスタントとカトリックの団結ですか？ ICM 出版 (p.9-10)
- (2) プロテスタントとカトリックの団結ですか？ p.34  
第2バチカン公会議,1965,1996 神の啓示に関する教義憲章 10.1「第2バチカン公会議公文書全集」、p.206.
- (3) プロテスタントとカトリックの団結ですか？ p.34  
J.A. Fitchner, "Tradition," *New Catholic Encyclopedia*, vol. 14, p.228.
- (4) プロテスタントとカトリックの団結ですか？ p.98  
ジョン・A・オブラエン、「百万人の信仰」、p.260.
- (5) プロテスタントとカトリックの団結ですか？ p.50  
[www.vatican.va/jubilee\\_2000/documents/enframe4\\_en.htm](http://www.vatican.va/jubilee_2000/documents/enframe4_en.htm) (1999年一月2日)
- (6) プロテスタントとカトリックの団結ですか？ p.72  
Ott, *Fundamentals of Catholic Dogma*,. 262.
- (7) プロテスタントとカトリックの団結ですか？ p.33。  
Catechism of the Catholic Church,#100, p.30.
- (8) プロテスタントとカトリックの団結ですか？ p.33。  
"Immaculate Conception and Assumption" 1999年1月2日。  
[www.catholic.com/ANSWERS/TRACTS/immacula.htm](http://www.catholic.com/ANSWERS/TRACTS/immacula.htm)。
- (9) プロテスタントとカトリックの団結ですか？ p.49。  
トレント公会議、第6総会、義化についての規定、9条「カトリック教会文書資料集」(Enchiridion Symbolorum) 1559番、H・デンツィンガー(H. Denzinger)編、p.282.
- (10) プロテスタントとカトリックの団結ですか？ p.50。  
同上、第16章、「義化の結果、すなわち善業の功績とその性質について」、「カトリック教会文書資料集」1559番、H・デンツィンガー編、p.280。
- (11) プロテスタントとカトリックの団結ですか？ p.51。  
Premm, *Dogmatic Theology for the Laity*, pp. 262-263.
- (12) プロテスタントとカトリックの団結ですか？ p.71。  
トレント公会議、第6総会、第9章、異端者の空しい信仰について、「カトリック教会文書資料集」1534番、H・デンツィンガー編、p.277。
- (13) プロテスタントとカトリックの団結ですか？ p.42。  
ボニファチウス8世の大勅書「ウナム・サンクタム」、「カトリック教会文章資料集」875番 H・デンツィンガー編、p.203。
- (14) プロテスタントとカトリックの団結ですか？ p.42。  
教皇ピウス9世の回勅 *Quanto conficiamur moerore*, 「カトリック教会文章資料集」875番 H・デンツィンガー編、p.437。
- (15)<http://www.thebereancall.org/node/5800>
- (16) (God's nonnegotiable gospel Part 1. April 1 1993.)

<http://www.thebereancall.org/node/5869>

(17) <http://pewforum.org/events/?EventID=80>

(18) <http://pewforum.org/events/?EventID=80>

(19) (“This evangelist has a ‘Purpose’” by Cathy Lynn Grossman, USA TODAY, July 21, 2003, [http://www.usatoday.com/life/2003-07-21-rick-warren\\_x.htm](http://www.usatoday.com/life/2003-07-21-rick-warren_x.htm). (Emphasis added))

(20) *Source (Catholic Bishop and Hillsong combined event brochure)*

<http://www.symphonyofscripture.com/pdf/hillsong-wyd.pdf>

(21)

[http://www.christian-faith.com/forjesus/files/aog\\_pope\\_brian\\_houston.pdf](http://www.christian-faith.com/forjesus/files/aog_pope_brian_houston.pdf)